

ヴィヴァルディ盤を聴く(2)(HP収載)
—最新アナログシステムでの試聴(2)—

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデルのアナログ盤を聴き直してきました。今回もヴィヴァルディ盤を聴いてみることにしました。

2. ヴィヴァルディのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、バッハのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

今回は、次のヴィヴァルディ盤を聴いていきます

ERATO OS-2585-RE (日本コロンビア)

アントニオ・ヴィヴァルディ チェロソナタ 1番・2番・3番
4番・5番・6番

ポール・トルトゥリエ (チェロ)

ロベール・ヴェイロン・ラクロワ (チェンバロ)

ERATO ERX-2212 (RVC)

アントニオ・ヴィヴァルディ チェロソナタ 1番・2番・3番
4番・5番・6番

ポール・トルトゥリエ (チェロ)

ロベール・ヴェイロン・ラクロワ (チェンバロ)

3. ヴィヴァルディのアナログ盤の試聴結果

OS-2585-RE (日本コロンビア) 盤と ERX-2212 (RVC) 盤は、収録曲も演奏もおなじで装丁もよく似ており、発売元がことなるだけのようです。

これらの二つの ERATO 盤の 6 曲は、ZANDEN のリストを参考に、ともに RIAA、R、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。

OS-2585-RE (日本コロンビア) 盤は、RIAA、R、第 4 時定数 Mid で聴いていきま

したが、違和感はなく、トルトゥリエのチェロが、甘く、柔らかに優雅に歌っていきます。それをラクロワのチェンバロは控えめに寄り添います。

ERX-2212 (RVC) 盤は、同じ国内盤ということで、**RIAA、R、第4時定数 Mid**で聴いていきましたが、少しくつきり感が強いところがあります。ジャケットのクレジットによれば、**Studer A80** のレコーダーから **200W 真空管アンプ**により **Westrex 3D Mk2** のカッターヘッド使用と記載があります。そこで、**Columbia、R、第4時定数 Low** にしてみますと、**OS-2585-RE** (日本コロムビア) 盤のようなトルトゥリエのチェロの甘く、柔らかな音に近づいています。このような条件は **ZANDEN** のリストになく、盤のラベルやジャケットのクレジットを子細に確認する必要がある事例と言えます。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンティスタティックやスピーカーアキュライザーの **Crstal EpY-G** や **Magic Mat II** の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上